

附属図書館本館の新築が決定

本学の附属図書館本館は、昭和32年いらい現在の位置において図書館業務を行なってきたが、図書館の機能および効率を発揮する上からみていろいろの制約を受けるほか、蔵書冊数および学生数の増加もあり、4学部、教養部および経営短期大学部が集中している最適の立地条件にもかかわらず、大学図書館としての多角的な機能を充分にはたすことができなかった。そのため大学図書館として近代的な機能を充分はたし得る独立した建物を適当な場所に新築してほしいということが多年の念願であったが、このほどその新築が文部省から認可されたことは、まことによろこばしい限りである。

新築地点は五福キャンパスの旧グラウンド敷地内で、正門から通ずるメイン・ストリートの正面が予定されている。建築面積は延 4,091 m²、鉄筋コンクリート 2階、一部 3階建であり、書庫は積層 3階建であるが将来は 4階にできるよう設計される。

1階は学生の開架閲覧室、教官閲覧室、閲覧係室、マイクロ・リーダー室、印刷製本室、ロッカー室、目録コーナー、新聞雑誌コーナー兼ラウンジ、図書消毒室、荷解室、男子更衣室、女子更衣・休憩室、宿直室、機械室、電気室、倉庫、書庫、便所等である。学生が図書館を利用する場合の便・不便からすると、図書館の建物は低層式がのぞましいとの見地から一部のみ 3階建であるが、閲覧部門については 1階が主となったわけで、1階の正面玄関をはいると図書出納台（カウンター）があり、それに接して 226席を有する開架閲覧室がある。ここには学生用の参考・指定図書など 2万冊以上の開架図書を配列し、窓ぎわに学生用のキャレル、6人掛の閲覧用長机、8人掛の閲覧用丸テーブルを配し、目録室と閲覧室の境には美しいガラス・スクリーンを設ける計画である。ラウンジには 2～3組の応接

セットを置き、やわらかいムードのなかで新聞を読んだり、軽い読物をたのしんだり、紫煙をくゆらしながら休憩することもできるようになっている。

さて本学では珍しい螺旋階段を上って 2階に行くと、吹抜けになったホールの一隅に小ラウンジ、312席の自由閲覧室、ヘルン文庫、文献複写室、受入・整理係室、会議室、館長室、事務長室、総務係室、用度倉庫、湯沸室、書庫、便所等がある。

3階は視聴覚教室兼演習室・準備室である。

文部省管理局教育施設部の大学図書館施設計画要項によると、学生閲覧室の座席数は学生総数の 20%にすること、また国立大学図書館改善要項によっても学生のための閲覧室座席は学生総数に対して 10～20%の用意をするようにつとめ、特に夜間の勉学に親しめるよう整備することとなっているが、現在の本館は学生の閲覧座席数 200席、学生総数の 5.8%にすぎず、学生閲覧室の一隅で新聞を読ませ、廊下の一隅に喫煙室を設け、カード目録は廊下に配列し、15万 5千冊の収容可能量をもつ書庫も手一杯の状態であるが、新築のあかつきには学生の閲覧座席数 538席、学生総数にたいし 16%となり、書庫も 30万冊余の収容可能量に達し現在の倍近くとなるわけである。

ご存じのとおり現在の学生閲覧室は木造で冷暖房の設備をまったく欠き、冬期の暖房については石油ストーブを配置しているわけであるが、新館には全館冷暖房が行なわれ、ことに午後 8時までの夜間利用者のため 1階の開架閲覧室にエア・カーテンのシステムで特別な暖房をほどこすことになっている。

以上、建築面についてのみ述べたが、それなら新図書館がはたす新しい課題はなにかと問いかえされる方もあろう。それは新しい革袋には新しい酒を盛るよう努力したいということで結んでおこう。（附属図書館）

学部ニュース

教育学部に「幼稚園教員養成課程」 新設

従来教育学部には、小学校・中学校と養護学校教員養成課程が設置されているが、昭和47年度から、新たに幼稚園教員養成課程が設置される予定。これ

は近時とくに重視されてきた幼児教育振興の要請に応じようとするもので、その前途が期待される。

教育学部附属学校(園)長改選

附属学校長の任期満了に伴い、2月23日改選の結果、附属小学校長に林三雄教授、附属中学校長に高野兼吉教授が選出された。

食堂の新設要求その後の経過

本学の食堂施設は「大学の食堂」として、あまりにもみすぼらしい。食堂という以上、明るく、清潔で、そこに入れば自然に「手を洗って」といった気持ちにさせられる位の場所であって欲しいもの。それでこそ利用する人も、僅かなものでも美味しく食べられ、疲れも休まることだろうし、また、そこで働く人たちにも張りがあるというものだ。元来、大学の食堂は学生会館とならぶ全学共通の重要な厚生施設であり、1日も早く現状が改善されるよう、これまで多くの人が願ってきた。既に昭和43年以来、本学としては評議会の議を経て、その新設を本省に対し要求し続けている。

しかし、今日にいたっても本省よりその施設について、明確な回答が得られていないため、担当部局としての学生部も、ますますつる学生の不便に苦慮させられている。今では、これまでの長い本省との折衝によって、食堂新設の必要性については、本省自身も充分理解しているようだ。しかも未だにその要求に対する明確な形での回答がなされない。ということは、実は学内にも、これまでいろいろの原因があったといわねばならない。

これまで、徒らに時が過ぎされたかに見える原因の一つは、本来、本学の敷地の狭隘さに基づくものだった。そのため、食堂建設予定位置が二転三転して容易に決定されず、更にそのうえ、わけて本学の場合食堂新設工事の必要上、教育学部旧芸能教棟の撤去が前提とされたため、それに伴う、学内措置に

関する本学の学内事情に基づく主張と本省の意向との間に容易に一致点が見出せず、徒らに交渉が長びくばかりだった。もちろん、本省には本省なりの理由があったのかも知れない。いずれにしても、建設予定位置は、本学の敷地拡張決定後、それまでの困難な事情は緩和され、昨年7月の施設整備委員会、評議会でその位置が決定され、最近では、むしろ本省側での施設関係の計画協議会から、そこで最適とされた位置へと再び変更するよう強く要望されている状況である。旧芸能教棟の撤去については、そこを一時使用していたサークルの移転について、教育学部、あるいは文化サークル連合その他と話し合いを重ね、本省とも一応了解のうえ、二階建プレハブ造りの課外活動暫定施設が旧グラウンドの一隅に設けられ、既に移転も完了し、今は旧芸能教棟撤去も時間の問題となっている。

本来、食堂建設と課外活動施設とは直接には何の関わりもないことである。しかし、本学の場合もともと狭い敷地の中で老朽校舎の使用や撤去の問題、サークル問題、更には生協運動に対する本省の評価などもからみあい、万事渋滞して新設要求も空転してきた感は免れない。今では方向もどうやら定まり、本学としては何とか本年中に明るい衛生的な食堂の建設を期待し、施設課はもとより学生部としても、一刻も早い新設時期についての確答を得られるよう更に努力を続けている。

(学生部)

薬学部長改選

本年3月末日で任期満了する現薬学部長永原茂氏の後任者を選考するため2月23日学部教授会が開かれ、薬学部教授山崎高應氏（薬学専攻）が選出された。なお、任期は2か年であり、本年4月1日付発令の予定である。

教養部長改選

本年3月末日で任期満了する現教養部長梅原隆章氏の後任者を選考するため2月23日教養部教授会が開かれ、教養部教授白井芳朗氏（英語専攻）が選出された。なお任期および発令予定日は薬学部長と同様である。

身 辺 雑 話

学 長 後 藤 秀 弘

年度末から新学期にかけては、入学願書の2月受付を皮切りに、卒業式、入学試験、入学式といろいろ気忙しい時期であります。その上長年手がけてきたISO TC 102の第3回総会が3月20日から5日間東京で開かれます。ISOはジュネーブに本部があり国際標準化機構というべきもので、そのTC102は日本が幹事国であって第1回は東京、第2回はパリで、再び第3回を東京で開催することとなりました。私は最初から学界関係者として関与し日本側代表委員として出席しており、今回も引き続き開会式や各種の委員会への出席が予定されています。しかし、私は本学の入試の関係もあるので、開会式の出席は他の委員に代わってもらいます。通産大臣による各国代表の招宴も予定され、これも日程次第のことですが、私としてはISO会議以前より旧知の外国の学者と旧交を暖めるよい機会と楽しみにもしています。

入学者を決定した翌3日から6日間、分析学会主催の国際分析学会が京都国際会議場で開かれるので京都へ行き世話をせねばなりません。外国からの出席者300名、国内400名の予定のところ、経済界の急変で外国人の出席取消しなどで百数十人と減少しましたが、国内は丁度予定通りであります。経費は参加費1万5千円という高額のため、国内参加者400名も危ぶまれていましたが、意外に寄付金は1千万円の見

込みを超え既に1千6百万円以上になるとか、その点ひと安心というところです。富大関係者にも出席して頂きたいと思います。会の運営に関する私の仕事の手伝いは大学の先生方をお願い致しております。開会の辞は分析化学会の初代会長で前日本学士院長の柴田雄次先生をお願いするなど、大先輩にも多数の参加援助を願っております。戦後我が国の分析学者が最も多く指導を受けたコルトホッフ博士は、第一線を退かれましたが、今回お招きして講演していただきます。その時のチェアマンを私が致すこととなり、京大・阪大の先生にその準備をお願いしています。その他の役割もありますが、とにかく京都で罐詰めになることは事実のようです。

本年は日本分析学会長を勤めることが決定しています。3月に総会を開くならわしですが、富山大学の公務のため、4月に入って入学式を終えた後にしてもらいました。分析学会は会員6千人余りの学会ですが、会務を処理するのがなかなかで、多くの先生方の御厄介にならねばなりません。

自分の身の辺のことばかり書きましたが、教職員および多数の学生諸君と対話する機会もなく、係りの方より学事以外の身の辺雑事でも書けとのことでしたので記した次第であります。

スキー講習会有意義に終了

去る1月7日から13日までの1週間にわたり、長野県ブナ平スキー場を中心として、学生140名、教職員20名計160名が参加し、スキー技術の向上、集団生活の体験を通じて、学生間および学生・教職員間の親睦を図ることを目的とした、学生部主催による「昭和47年1月学生集団スキー講習会」が開催されました。

本学のスキー人口は年々増加し、今回の講習会では参加希望者が殺到し、参加受付2日目で定員オーバーになるという盛況ぶりでした。

講習会では、スキー技術の程度により初級から上級まで10班を編成し、班ごとに別れて講習を行いました。

各班とも活気にみちあふれ、初級班では、スキーが初めてという学生も最終日までにはスキー技術の向上が著しく、そうとう腕をあげ、全員、スキーがこんなに楽しいものとは思わなかったと喜びあっていました。

また中・上級班では山から山へ志賀山を自分の庭のように滑り、真黒に雪やけた顔におれ達の山だという誇りと、自信がみなぎっていました。この講習会の成果を6日目の晩に最上級班(第1班)がみせてくれた、たいまつを片手にゲレンデを滑りおけるウルトラ演技に拍手がおこり、彼等を取りまく仲間達は手をつなぎ歌を歌う、この和、この活気にみちあふれたすばらしい若者達、この情景こそ春秋にとむ若き学生の真の姿ではなからうか。この情景が来年も更来年もみられることを……。また、スキー講習会だけではなく、ほかの事業などでもこのような情景が生まれることを期待したいものです。

こうして、1週間にわたる講習会は天候にも恵まれ、心配されたけが人もなく、有意義に講習会が終了できましたことを、指導教官並びに関係各位に深く感謝いたしております。

北陸三大学学生総合体育大会

第24回北陸三大学学生総合体育大会が、本学の当番で、来る7月1日・2日を中心に、陸上競技を始め23種目にわたり、金沢・福井・富山大学から学生約1,700名の若人が集り熱戦をくりひろげられることになりました。

本学からも、毎年多数の学友が参加しており、今回も好成績を期待しているところであり、各位の声援と協力をお願いします。

なお、各競技部員は勉学などの余暇をじゅうぶん活用して練習に励み、チーム・ワークづくりに努め、優秀な成績をあげるよう期待します。

また、日程と競技種目はつぎのとおりです。

競技種目	期 日	競技会場
陸上競技	男・女 7月2日	県営陸上競技場
野 球	男 7月2日 (雨天のときは3日、4日まで延長)	県 営 球 場
庭 球	男・女 7月1日2日 (雨天のときは3日まで延長)	富山大学コート
軟式庭球	男・女 7月2日 (雨天のときは3日まで延長)	前 田 コ ー ト
卓 球	男・女 7月2日	附属中学校体育館
バドミントン	男・女 7月1日・2日	市 営 体 育 館
バレーボール	男・女 7月2日	富山大学体育館
サ ッ カ ー	男 6月30日 7月1日・2日	富山大学グラウンド
ラグビーフットボール	男 6月11日18日 25日	金沢大学グラウンド
剣 道	男・女 7月2日	商業高校武道場
柔 道	男 7月2日	富山大学武道場
バスケットボール	男・女 7月2日	富山中部高等学校体育館
水 泳	男・女 7月10日	富山市民プール
ソフトボール	女 7月2日 (雨天のときは3日まで延長)	附属中学校グラウンド
ヨ ッ ト	男・女 7月1日2日 (波の高いときは3日まで延長)	国 分 浜
準硬式野球	男 7月2日 (雨天のときは3日まで延長)	本 丸 球 場
ハンドボール	男 7月2日	高岡市営体育館
空 手 道	男 7月2日	附属小学校体育館
弓 道	男・女 7月2日	富 山 県 錬 成 館
体 操	男・女 7月2日	富山商業高等学校体育館
自 動 車	男・女 7月2日	呉羽自動車学校
※ 少林寺拳法	男 7月2日	富山大学小講堂
※ 創作舞踊	男・女 7月1日	富山大学学生会館

※印は、オープン・ゲームの予定です。

昭和47年度入学志願者願書〆切られる

21日、47年度入学試験の願書の受け付けを締め切った。定員945人に対し、出願者数は5.17倍の4,891人。昨年の5.22倍に比べわずかに下回り、学部別では、薬学部が8.61倍、経済学部6.16倍、文理学部5.32倍、工学部4.22倍、教育学部3.98倍。学科別では、製薬化学が11.34倍で最高、新設の幼稚園教員養成課程は2.83倍という訳。

入学試験は3月23日、24日の両日午前9時から、文理、教育の両学部は五福キャンパス、経済学部が富山中部高校と芝園中学校、薬学部が雄峰高校、工学部が高岡工芸高校でそれぞれ実施される。

合格発表は4月2日午前9時から五福キャンパスと高岡市中川の工学部で行なわれる。

昭和47年度 富山大学 入学志願者数調

学部	学科・課程	昭和47年度			昭和46年度			備考
		定員	志願者数	倍率	定員	志願者数	倍率	
文理	文学科	60	454	7.57	60	328	5.5	
	理学科	125	530	4.24	125	512	4.1	
	計	185	984	5.32	185	840	4.5	
教育	小学校教員養成課程	130 (30)	515 (85)	3.96 (2.83)	100	456	4.6	カッコ内は幼稚園教員養成課程(新設予定)の内数
	中学校教員養成課程	50	242	4.84	50	273	5.5	
	養護学校教員養成課程	20	38	1.90	20	60	3.0	
	計	200	795	3.98	170	789	4.6	
経済	経済学科	160	986	6.16	160	962	6.0	
薬学	薬学科	50	294	5.88	50	574	11.5	
	製薬化学科	50	567	11.34	50	353	7.1	
	計	100	861	8.61	100	927	9.3	
工学	電気工学科	50	258	5.16	50	207	4.1	
	工業化学科	40	175	4.38	40	189	4.7	
	金属工学科	40	136	3.40	40	145	3.6	
	機械工学科	50	251	5.02	50	277	5.5	
	生産機械工学科	40	113	2.83	40	150	3.8	
	化学工学科	40	148	3.70	40	151	3.8	
	電子工学科	40	184	4.60	40	140	3.5	
	計	300	1,265	4.22	300	1,259	4.2	
合	計	945	4,891	5.18	915	4,777	5.2	

昭和46年度卒業見込者の就職内定状況

(昭和47年2月1日現在)

学部	学 科 課 程	(a)卒業見込者数			(b) aのうち就職希望者数			(c)bのうち就職内定者数 ()内数字は県内就職内定者数を内数で示した)			(d)就職率($\frac{c}{b} \times 100$)		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
文理学部	文学科	58	21	37	46	11	35	20 (5)	6 (1)	14 (4)	43.5	54.6	40.0
	理学科	118	97	21	87	66	21	39 (10)	36 (9)	3 (1)	44.8	54.6	14.3
	小計	176	118	58	133	77	56	59 (15)	42 (10)	17 (5)	44.4	54.6	30.4
教育学部	小学校教員養成課程	95	17	78	95	17	78	54 (37)	13 (11)	41 (26)	56.8	76.5	52.7
	中学校教員養成課程	52	18	34	52	18	34	14 (9)	5 (5)	9 (4)	26.9	27.8	26.5
	養護学校教員養成課程	17	1	16	17	1	16	5 (2)	0	5 (2)	29.4	0	31.3
	小計	164	36	128	164	36	128	73 (48)	18 (16)	55 (32)	44.5	50.0	43.0
経済学部	経済学科	178	173	5	167	162	5	162 (23)	161 (22)	1 (1)	97.0	99.4	20.0
	小計	178	173	5	167	162	5	162 (23)	161 (22)	1 (1)	97.0	99.4	20.0
薬学部	薬学科	57	10	47	50	6	44	30 (3)	3	27 (3)	60.0	50.0	61.4
	製薬化学科	55	49	6	31	25	6	27 (1)	23 (1)	4	87.1	92.0	66.7
	小計	112	59	53	81	31	50	57 (4)	26 (1)	31 (3)	70.4	83.9	62.0
工学部	電気工学科	58	58	0	48	48	0	48 (8)	48 (8)	0	100	100	0
	工業化学科	36	36	0	29	29	0	29 (7)	29 (7)	0	100	100	0
	金属工学科	50	50	0	37	37	0	34 (11)	34 (11)	0	91.9	91.9	0
	機械工学科	58	58	0	49	49	0	47 (11)	47 (11)	0	95.9	95.9	0
	生産機械工学科	52	52	0	48	48	0	45 (14)	45 (14)	0	93.8	93.8	0
	化学工学科	43	43	0	36	36	0	36 (13)	36 (13)	0	100	100	0
	電子工学科	32	32	0	22	22	0	21 (5)	21 (5)	0	95.5	95.5	0
	小計	329	329	0	269	269	0	260 (69)	260 (69)	0	96.7	96.7	0
合 計		959	715	244	814	575	239	611 (159)	507 (118)	104 (41)	75.1	88.2	43.5

(学生部厚生課)

富山大学学園ニュース編集委員会委員

学生部長 教授 酒井康彦, 文理学部 未 定, 教育学部 助教授 藤井敏孝
 経済学部 教授 岩淵富治, 薬学部 教授 西 荒介, 工学部 教授 沢 畠 恭
 教養部 助教授 奥貫晴弘